

日の出

そっと触れただけでこぼれる音の滴
次第に姿が浮び上がってくる草木
鹿が耳をびくりと動かして何かを感じている
下草の細長い葉先から落ちようとするもの
遙か彼方から、そっと忍び寄ってくる
振り向くために・・・
鳥たちが首をかしげ、羽をつくろう時
かすかに、そしてかすかにふるえる
何かを待ち受けている　　世界
お前は未だ俺の左腕に縋ったまま
ひかりはこの部屋の奥まで届く
空気さえも姿を見せるとき
全てはじっと見守ったまま動かない
このぼんやりとした映像を除いては・・・
もっとお眠り、心ゆくまで
小さな肩にそっとキスをすると
夢の中でお前はかすかに微笑む
軽くキイに触れたときのひとつぶの音のように
もっとおやすみ、心ゆくまで

(1984.11.6)